

丸い大きなどんぐりは2年かかって熟します

レッドオーク

(別名アカナラ、アカガシワ)

ブナ科コナラ属

落葉高木。北米原産で、北国では公園や街路樹などに植栽されることが多いどんぐりの木です。美しく紅葉すること、材が赤みがかったことが名の由来。

大きな葉は羽状に切れ込みがあり、鋸歯がある特徴的な形です。よく呼ばれている別名「アカガシワ」は葉が柏に似ているからとされますが仲間の欧州原産の「イングリッシュオーク」の葉の方が裂片の先が尖らないので似ています。

ミズナラやコナラの実には雌花が受粉すると当年の秋に熟す1年成ですが、レッドオークは2年成で、翌年の秋に熟します。そのため夏には今年のどんぐりの赤ちゃんと、2年目の成長した若いどんぐりの2種類が観察できます。うまく見つけられると大興奮です。ベレ-帽のような殻斗と大きな丸いどんぐりは、クラフト材料としても大人気。園内のどんぐりは職員が採取して、森林ふれあい学習館の「森のクラフト体験」でも提供しています。

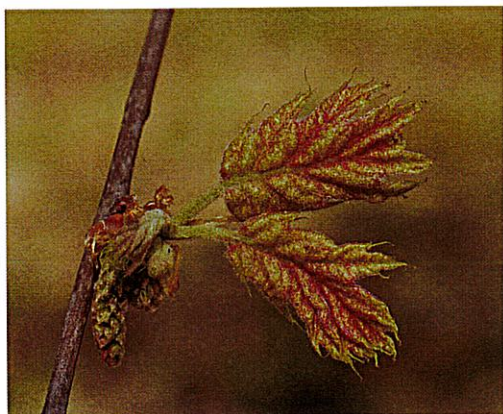


レッドオーク葉 (表) (×0.8)

【秋に拾った熟したどんぐり】



【実：上が1年目、下の大きいのが2年目】 2019.8.13



【芽吹き】 2025.5.14



【紅葉】 2019.10.28



【樹皮】 2024.3.27